

憲法九条の会・岩岡 ニュース 第91号

2015・5・11発行

発行人 堀口照美／編集人 白井篤子

「憲法九条の会・岩岡」第9回総会開かれる 5月3日(日・憲法記念日)岩岡連絡所

5月3日、憲法記念日に岩岡連絡所多目的ホールで「憲法九条の会・岩岡」第9回総会が開かれました(25人参加)。ネットで見たという若い男性らが岩岡外からも参加してくれ、初めてみる顔が少なくありませんでした。

恒例のバザーも行いました。たくさんのお品が並べられ、新品の台所用品、電気ストーブ、センスのよいコーヒーカップなど、一番高い物で500円なのであっという間に売れてしまいました。朝どりの春キャベツが1個100円でこれも飛ぶように売れ、瞬く間になくなりました。バザーはいつも参加者の皆さんに喜んでいただいています。売り上げは9,900円でした。

また沖縄の辺野古に連帯して、手作りのジュゴン(200円)や、ジム・デーヴィスさん作製のボールペン、皮表紙の手帳、かわいらしい皮細工の小物も販売されました。デーヴィスさんの作品はどれも玄人はだしです。

ネパール大震災救援カンパ箱を置きましたが、700円入っていました。それに3人が上乗せして、1万円をNPO法人「ラリグラス」に送金しました。ネパールへの支援を行っているこのNPOは、ネパールの赤ひげと慕われた故・岩村昇医師にゆかりの方々が多木市で立ちあげている団体です。なお「憲法九条の会・岩岡」にも1,000円のカンパをいただきました。

総会は会長あいさつに始まり、事務局の活動報告、会計報告と監査報告、最後に2015年度の役員を承認して終わりました。会長は堀口照美さん(留任)、事務局担当は白井篤子(留任)、会計は西晶子さん(新任)です。

堀口会長のあいさつの中で紹介された、お孫さん(小学5年)の言葉です。「僕は戦争は絶対いやだ。学級委員長の選挙でもケンカをしない、皆仲良くしようという人を選ぶ。何で総理大臣や大統領にそういう人を選ばないのか」。私たち大人の責任が問われています。

連休中にもかかわらずご参加下さった皆さん、バザーの品を提供して下さい下さった皆さん、お買い上げいただいた皆さん、カンパをして下さった皆さん、本当にありがとうございました。

なぜ私は憲法九条を愛するか

総会后、午後2時から約30分、ジム・デーヴィスさん(42歳)に「外国人から見た憲法九条」と題してお話をいただきました。通訳は奥さんの香世さん。なお、以下の要旨は香世さんにまとめていただきました。

Goodafternoon! 私はイギリスから来ました。今回一外国人としての九条に対する印象を語っていただけませんかとお願いされたので、楽しみにして来ました。今日皆さんと分かち合いたいのは、私の人生でこれまで歩んできた旅路—私がどのようにして憲法九条を愛するようになったか—です。

私が子どもの頃、今10歳の息子がいますが、もうちょっと小さいとき、イギリスにはウルトラマンや仮面ライダーはなかったのですが、1970年代に一番人気のあったおもちゃはアクションマンでした。兵士のおもちゃでした。武器をたくさん持っていて、戦車も持っていました。夏休みにはマンガを読みました。殆どのマンガはナチスに対抗する戦いのマンガでした。イギリス、アメリカ、オーストラリアの連合軍が日本軍と戦っているというマンガもありました。このタイトルをごらん下さい。「ジャップ キラー」ジャップというのは日本に対する蔑称です。小さい兵士のおもちゃを日本軍兵士に見立てて殺すという遊びもしていました。私は本当に戦争に興味があったんです。

私の国イギリスは、流血の歴史を持っています。もちろん誇りに思っていることもたくさんありますが、恥ずべきこともたくさんあります。私の国はいつもどこかで戦っているような国なんです。私が9



ジム・デーヴィスさんと香世さん

歳の時でしたが、サッチャー政権時代のフォークランド紛争（1982）では、アルゼンチンの侵攻に対するイギリス領の自衛戦だったので仕方がないと思っていました。冷戦時代には、イギリスに核爆弾が落とされるという設定の映画「風が吹くとき」（1986）が公開されました。核の脅威を身近に感じ、軍事力は必要だと思っていましたし、自分も少年航空隊の訓練を4年間受け、小型飛行機に乗ったり、本物の銃を撃つ練習もしました。またNATO（北大西洋条約機構）*のステッカーに書かれていたのは「平和のためのあなたの一番の賭け、選択肢はNATO」これをスーツケースに貼ったりしていました。今考えると変なステッカーです。平和を賭け事にしてよいものか？この頃までは、イギリスなど西側は正義の側であると思っていました。

*北アメリカとヨーロッパ諸国がソ連など共産諸国に対抗する軍事同盟

考えが変わるきっかけになったのは、2003年の米英のイラク侵攻の時でした。結局、大量化学兵器は見つからず、違法な戦争でした。国民の大多数が反対だったにもかかわらず、アメリカ大統領ブッシュに早々と派兵すると伝え、イラク侵攻に踏み切ったブレア首相。彼はその5年前には「私の世代が初めて戦争に行かず、子どもたちを戦争に送り出すことのない世代になるはずだ」と話していたのに。ロンドンのデモ行進で掲げられた横断幕には「ブレアのウソが何千人も殺した」と書かれていました。

右派のサッチャー政権でも、左派のブレア政権でも戦争になりました。政治を信頼できなくなりました。自国が違法な戦争に参加する時、指導者の権限を制限する憲法がないイギリスでは、リーダーが始める戦争を制止する術がありません。指導者は人間であり、間違いを犯します。英語に“Thin end of the wedge”（くさびの尖った方）という表現があります。固く閉じられたものでも、くさびを使い、少しずつこじ開けることができます。最初は一見何でもないようですが、いったん進入を許すとあとはなし崩し的に重大な結果になることを表しています。

2007年に防衛庁が防衛省に昇格しました。人々がそれに慣れてきたら、今度は憲法の解釈を変えてきました。私は憲法9条は絶対に守らないといけないと思います。

（香世さん、あとがき）

2003年、イラク侵攻にイギリスも参戦ということがラジオで流れた時、私はキッチンでジムの散髪中だったのを思い出します。議論もなされぬままに、あれっという間に。こんな日常の1コマで戦争は始まるのだと驚きました。

知られざる最前線—神戸が担ってきた「日米同盟」

ジム・デーヴィスさんのお話の後には、上記のDVDが上映されました。昨年9月21日に4チャンネルで放映されたものです。

冒頭、平和な神戸港が映し出されます。しかし朝鮮戦争（1950～53）の時、神戸港は出撃拠点として騒然としていました。8,000人近い民間人が海上輸送などを担わされ、56人が犠牲になった事実は殆ど知られていません。憲法9条違反として闇に葬られてきたからです。

戦争後初めて神戸を訪れた三宮克己さん（87歳）は、「ソウルに上陸して北朝鮮兵士の死体を見たとき、あゝ俺は人殺しの手伝いをしているんだと愕然となった。他国の戦争に巻き込まれる集団的自衛権の行使は、やりきれないというより怒り心頭ですね」と語っています。弟の坂太郎さんが犠牲になった中谷藤市さん（87歳）は、「このことを話せば家族だけでなく親戚も大変なことになると言われて、戦後長く弟の死を語るができなかった。集団的自衛権の行使で孫、ひ孫が徴兵されて戦場に行くことになるでしょう」と話しています。

神戸市が1975年3月18日、「核兵器積載艦船の神戸港入港拒否に関する決議」を行った経過を追い、久元喜造神戸市長も登場して集団的自衛権行使についての考えを述べています。必見です。

第88回世話人会

と き: 2015年5月16日(土)13:30~15:30 ところ: 岩岡連絡所多目的ホール(小)

総会の総括と2015年度の活動について考えます。どなたでもご参加下さい。

